

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 生活部会

テーマ 『表現することで、思いや気付きを深める学習活動』

提案概要

テーマ設定の理由

生活科の特質である「直接体験を重視した学習活動」や、「身の回りの地域や自分の生活に関する学習活動」を行う中で、“友だちの考えをしっかりと聞こうとする力” “課題についてみんなで考えようとする力” “自分の考え方を伝えようとする力” をつけていきたいと考えた。2年生修了時には、活動中に生じた子どもたちの思いや気付きを言葉につなげ、特に相手にわかるように伝える力を伸ばすようにしたい。しかし、1年生の段階では、まず自分が何を考えているのかをつかませることからはじめ、相手に伝えることへとつなげていく活動を行った。

そこで、子どもたちが表現しやすいように感じた思いや気付きを絵や粘土作品に表したり、動作化したりした。さらに話したことを聞き書きし、次第に自分で表現することにつなげていきたいと考えた。

実践の概要

単元(題材)は「きせつと ともだち」で行い、年間を通して、気付きを絵や粘土作品で可視化したり、自分なりの言葉に変換したりして自己表現をした。

☆はると ともだち

春探しや春遊びの活動後、見つけた「春」を画用紙に貼ったり、何をしたのか絵にかいたりして、活動の振り返りをした。

*聞き書きによる振り返りを行う事で、無自覚なものを自覚された気付きへ変容し、さらに児童によっては過去と関連付けられた気付きが現れた。

☆なつと ともだち

「はると ともだち」と同様に様々な振り返りを行った。ここでの表現方法は絵、粘土、聞き書き、自力作文の中から自分で選ぶようにした

*多様な表現方法の中から対象への気付きが自分自身への気付きへ、また、それまでの気付きと関連付けられた気付きが見られた。

☆あきと ともだち

今までと同様の振り返りを行った。さらに、国語との関連的な指導を取り入れ、日記で振り返りも行った。

*学級だよりに掲載し、子どもに読み聞かせたり、作品や日記を友だちと交流したりすることにより友だちの気付きに目を向けるようになってきた。

☆ふゆと ともだち

振り返りを行い、さらに気付きの交流と次時のめあてを設定した

*子どもたちが出来ごとの課程から話している姿が見られた。

成果と課題

- ・気付きを表現することで、無自覚であったことを自覚された気付きへとつなげたり、高めたりすることができた。国語科と関連を図ることで、気付きを言葉にする時間を十分にとることができた。
- ・子どもたちが表現した気付きを学級便り等に掲載して読み聞かせたり、交流したりしたことで、子どもたちの考えを伝えることができた。その中で、友だちの学習対象への思いや気付き、捉え方を知ることができ、それがその子自身の学習対象の見方を育てることにつながり、気付きの幅が広がった。
- ・自然に目を向けて生活している様子が見られるようになった。
- ・国語科との関連的な指導で書く時間を確保したが、多くの時間を割き、他の国語の学習時間が少なくなった。
- ・発達段階上、自己中心性が高い子どもたちは、自分が興味を持ってないことについて交流活動をするのが難しい。

質疑概要

- Q) 生活科の年間指導計画に季節の行事が含まれていないがどのようにしているのか。
- A) 特別活動で季節の行事を扱っている。生活科は担任の主導で行うものだと考えていないので生活科の計画には入っていない。
- Q) 自分の学校には6年生との交流等があるが、2年生以外との交流はあるか。
- A) 学校の行事でウォークラリーを行っている。また、1年生の年度末には「ようこそ集会」として幼稚園児を招待している。
- Q) 気付きの質が高まったと教師が感じたときどのような評価を行っているか。
- A) 単元の評価基準と結び付けて評価を行っている。

研究協議概要

生活科と他教科との関連的な指導のアイデア

- ・ 図工との関わりでは「フィールドビンゴ」で色探しをする。
- ・ 国語との関わりでは観察カードで作文指導を行う。
- ・ 教員の柔軟な思考をもつことで他教科との関わりが広がる。

カリキュラム編成について

- ・ 昔は動物や魚などの飼育をしたり、プールのヤゴ取り等を行ったりする事ができたが今は難しい状況にあるので編成は難しい。提案されたカリキュラムを参考にしたい。
- ・ 衛生上の問題から植物の飼育や畑の管理の仕方が難しくなる。
- ・ フェスティバルや昔遊びを取り入れたり、地域のパン工場への見学等を取り入れたりしている。
- ・ 9つの領域のバランスを取るのは大変難しい。参考にする。

気付きの質を高めるための手立て

- ・ 指導者との関わりをすることで質が高まるのではないか。
- ・ 学校だからこそみんなでできることを行うとよいのではないか。
- ・ 聞き書きや読みあったりすることで気付きの共有が生まれ質が高まる。
- ・ 話し合いをすることが大切である。
- ・ 指導者が他者の作品を紹介するのは良い手立てだと思う。
- ・ 気付きのポイントを提示するとよいのではないか。
- ・ 聞き書きを全員にできる先生の凄さを感じた。
- ・ まだ作文が得意ではない子には写真を使うとよいのではないか。
- ・ 互いの気付きを検証し合う活動を行うとおもしろい。
- ・ 聞き書きはとても有効だが、教師がねらいをもってつぶやきを拾えるようにしたい。
- ・ できたことをまとめる活動を行い、自分の成長に気付けるようにしている。
- ・ 草木染めをし、色で自然に取り組む活動をしている。
- ・ 観察カードや図工の作品をまとめて返すことで、1年間の成長に気付く事ができる。

まとめ概要

- * 気付きは友だちとの関わりで見つけることもある。予想することや、試行錯誤をすることも手立てとして考えられる。疑問をもつことで無自覚なものから自覚されたものへ変わり、それを言語などで表現されたものが、褒められ、認められることで、気付きの質が高まっていくのではないか。

今回の聞き書きは生活科の体験から国語科の言語表現、そして生活科の気付きへとつながっていてよかった。子どもの感想は「おもしろい」で終わらせてしまいがちだが、今回の聞き書きのように粘って子どもの言葉を引き出してあげ、それに価値づけをすることがとても大切なことである。

子どもの願いを実現させる手助けをするのが生活科なので、思い付きではなく思いをもって生活科に取り組んでほしい。

- * 生活科では自立への基礎を養う。具体的な体験を通していく中で、知的な気付きの質を高めることが大切である。気付きとは生活科特有の観点で様々なことに気付いていくことで自立させる。そのためには評価の仕方が大切である。